

常なる磐

つねなる いわ season II

令和3年5月14日(金)

◇ 常磐東小の春 その②

プール向かい側、3年1組の教室の近くにある「ナンジャモンジャ(雪花)」の花が満開である。まるで雪をかぶったような姿だ。



このナンジャモンジャ。正式名を「ヒトツバタゴ(一葉田子)」といい、「ナンジャモンジャ」は通称である。しかし、不思議な通称だ。

名付けには諸説あるようで、『何の木だ?』と言っているうちに「ナンジャモンジャ」になったとか、水戸黄門が咄嗟に名付けたとか。



ナンジャモンジャは、左の写真のような細い花弁の真っ白な花を無数に咲かせる。

「少し前までは葉っぱしかなかったのに、いつの間に咲いたんだ?」と思うほど一斉に花を咲かせるのだ。

今年はソメイヨシノと同様に、どの樹木も昨年より花のつきがよい。

学校をよく知る中根社教委員長が「今年は、梅の実のつきがいいね」とおっしゃってくれたが、樹木の育成環境が整ってきたということか。山田校務員がウメノキゴケを除去してくれたおかげである。

ナンジャモンジャの花言葉は「高貴」「謙遜」。

因みに、愛知県の絶滅危惧1類に分類されており、貴重なのである。



左の写真は、校内の一角。
ぱっと見て、すぐに場所が言い当てられたのなら、相当の「常磐東つう小学校通」である。

西門北側にあるミニ庭園だ。

非常によくできた庭園で、山田校務員によって手入れも行き届いているのだが、いかんせん場所が悪い。奥まった角地であるばかりでなく、

ゴミ用倉庫や油庫が障害となり、景観を楽しむのは困難な場所だ。

このミニ庭園について、2つ紹介したい。

一つ目は、**赤矢印**➡黒く見える立方体は【鉛筆塚】である。資料によれば、校舎移転の話がもちあがり始めた昭和49年3月の建立で、費用は「1円玉貯金」とある。おそらく募金によるものだろう。「学習に欠かすことのできない大切な鉛筆への感謝」「学習に励むことの大切さ」を鉛筆供養という形で対応するための象徴である。



二つ目は**赤破線円**の樹木。校内唯一の紅葉である。秋ではなく、この時期に紹介するには理由がある。自分も本校に赴任して初めて知ったのであるが、紅葉は春に右写真のような花を咲かせる。

花は赤に近い桃色で、2枚の花弁がプロペラのように見える。秋の紅葉の美しさには及ばないが、この時期しか見られないかわいい花を是非ご覧いただきたい。



因みに、紅葉の左には、これも校内唯一の「金木犀（キンモクセイ）」。秋には、甘い芳香で庭園は満たされる。本校のミニ庭園は、隠れた名所なのである。